

《原著》

高校科目保健における性に関する効果的な語り合いを促す授業

— 「CROSS OPINION」の開発と授業実践および評価 —

石井 里佳¹⁾ 木山 慶子²⁾ 霜触 智紀³⁾ 金子 伊樹⁴⁾

キーワード：性教育、高校、保健授業、語り合い、教材開発

I. はじめに

高校生の性交経験率は男子で 13.6%、女子で 19.3%であり、性交時に必ずコンドームを使用する者は、男子で 65.4%、女子で 50.2%である¹⁾。このような性交経験の若年化や不十分な避妊の実態に関連した、10代の人工妊娠中絶や性感染症は重大な健康課題である。そのため、平成 29 年、30 年告示の小・中・高等学校の学習指導要領解説²⁻⁴⁾で取り上げられている通り、今後とも保健授業において性に関する学習指導の充実に努めていく必要があるといえる。また、先に述べた性交経験率は大学生で男子 47.0%、女子 36.7%と高まる。高校卒業後は社会に出る生徒もいるため、性について最後の学習の機会となる高校生の時期が重要になる。

しかし、適切な性知識が実際の適切な性行動につながるとは限らない。学生の性知識と性行動の関連について、医学部生と工・教育学部生の群を比較した研究によると、医学部生の方が性に関する知識や正解率が有意に高いにも関わらず、避妊率は両群ともに 50%程度であった⁵⁾。

つまり、単に知識を覚えるだけに留まらず、知識を態度や行動に結びつける実践力を育む指導が必要と考えられる。

さらに、性に関しては、日常の場面での自身の意思決定・行動選択が求められよう。高校生が性交時に避妊を実行しなかった理由は男女共に「準備していないことが多いから（男子 36.8%、女子 42.6%）」が最も多い。次いで「たぶん妊娠しないから（男子 23.7%、女子 23.1%）」「めんどうだから

（男子 31.6%、女子 13.9%）」と続き、女子では「避妊を言いたせないから（11.1%）」が多いこと¹⁾が示されている。加えて、避妊について相手と「よく話す」者は、高校生男子で 21.8%、女子で 22.0%であり¹⁾、性について自分の意見を伝えることや、相手の意見を聞き出すことができない現状があることが推察される。

以上より、他者との関係性などの心理的・倫理的側面を踏まえて、自分ごととして性に関する意思決定・行動選択ができる能力や、性について語り合うことのできる能力の育成も必要と考える。

また、今回の学習指導要領改訂において主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）について示されている。単元など内容のまとまりの中で、対話によって、自分の考えなどを広めたり深めたりする場面を取り入れていく授業改善が求められる。つまり、保健授業における性に関する学習の単元においても、既習知識を活用し、対話を通じた学びとして、性について語り合う活動を実施すべきと考える。

先に述べたような青少年の健康課題を受け、従来型の一方的な知識の提供では、十分ではないことが認識され、ピアエデュケーションとピアカウンセリングが新しい性教育法として注目されている⁶⁾。ピアエデュケーション（仲間教育）とは、テーマについて「正しい知識・スキル・行動を共有し合うこと」である。ピアエデュケーションに関する専門的な知識や技能を学び、資格を得たピアエデュケーターを介して行うものである。ピアエデュケーションによる性教育は、エデュケーター

1) 高崎市立高崎経済大学附属高等学校 2) 群馬大学 3) 新潟大学 4) 目白大学短期大学部

一（仲間）の立場から正しい知識を提供し、積極的傾聴と問題解決スキルを用いて、対象者自身のセクシュアリティに関する考えや気持ちを明らかにし、自分自身で解決策が見出せるよう支援すること⁷⁾と定義されている。高校生を対象としたピアエデュケーションの評価として、性に関する正しい知識やスキルを獲得するだけでなく、性を自分に関係のあることとして捉えるようになり、性行動の意思決定能力や効力予期が高まっていること⁸⁾が示されている。さらに、コミュニケーションスキルの修得と対人関係や自己理解、人生に対する認識を深める効果がもたらされること、その結果として性行動の意思決定能力や性感染症予防行動の効力予期も高まっていること⁹⁾が効果として明らかになっている。

しかし、ピアエデュケーションを実施するためには、外部の大学生などのピアエデュケーターに依頼する必要がある。加えて、授業内容の打ち合わせや授業時間、評価など多くの困難がある¹⁰⁾。さらに、中学校保健体育教員は、保健授業における性に関する学習指導について、教材研究や教具

づくりのための時間が無いことなど、授業準備のための時間を捻出する困難性を課題として挙げている¹¹⁾。これらのことから、普段の保健授業でピアエデュケーションを取り入れることには、大きな負担があることが推察される。そのため、普段の保健授業で性に関する語り合いができる教材が必要であると考えられる。

そこで本研究は、保健授業における性に関する語り合いを効果的に行うための教材を開発する。そして、開発教材を用いた授業の実践と評価を行うことで、開発教材および提案授業の有効性について検討することを目的とする。

II. 研究方法

1. 研究の手順

石井ら¹²⁾および先行研究^{7) 14-23)}を踏まえ、性に関する語り合いを効果的に行うための教材を開発した。続いて開発教材を用いた授業を、高校生を対象に実践し、授業評価を行うことで、提案授業の有効性を検討した（図1）。

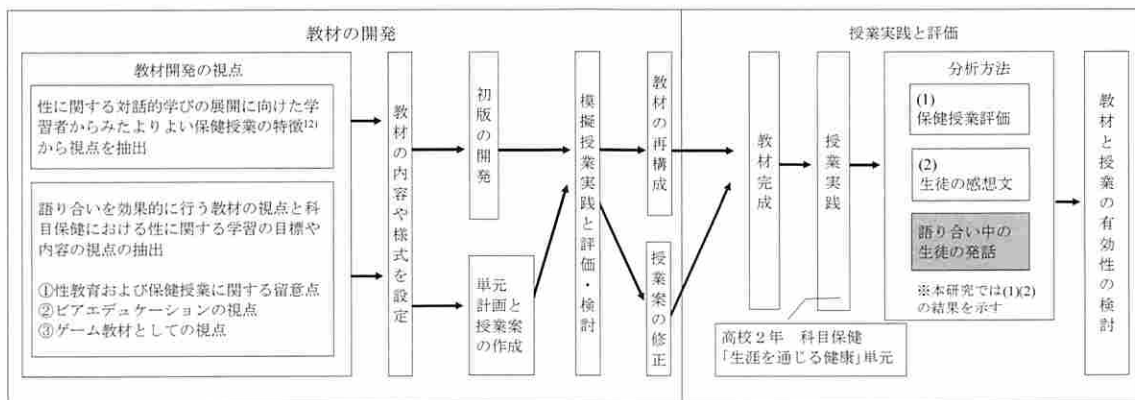


図1 研究デザイン

2. 教材の開発

2.1 教材開発の視点

2.1.1 性に関する対話的学びの展開に向けたよりよい保健授業の特徴

石井ら¹²⁾は、学生の性に関する既習状況や学習ニーズの調査から、性に関する対話的な学びの展開に向けた、学習者からみたよりよい保健

授業の特徴を明らかにしている。その中から、教材開発の際に踏まえるべき視点について整理した（表1）。

2.1.2 語り合いを効果的に行う教材の視点と科目保健における性に関する学習の目標や内容の視点

①性教育および保健授業に関する留意点

教材および提案授業の開発の際に留意する点を、中央教育審議会答申¹⁴⁾、学校における性教育

の考え方・進め方¹⁵⁾、高等学校学習指導要領解説体育・保健体育編¹⁶⁾から「ねらい・目標」「指導内容・方法」として抽出した。

中央教育審議会答申では、ねらいとして「自己と他者の個性を尊重し、思いやることができる人間関係を構築するための能力を育むこと」と示されていた。また、指導内容・方法として「子どもたちの心身の発達や実態に即した学習内容や指導方法を選ぶこと」「性に関する心と体およびエイズや性感染症などについて正しく理解できる」と示されていた。

学校における性教育の考え方・進め方では、ねらいとして「生命の大切さや人間尊重、男女平等の精神に基づく望ましい意志決定や行動選択ができること」と示されていた。また、指導内容・方法として「性を生理的・心理的・社会的側面から総合的かつ科学的に理解すること」と示されていた。

学習指導要領では、目標として「生涯の各段階（思春期・結婚生活・加齢）における健康課題を自ら管理し、環境を整えることができる能力を育むこと」「性情報への適切な対処ができること」と示されていた。また、指導方法として「既習の知識を活用する場面があるような学習活動を取り入れること」と示されていた。

以上のことから、授業のねらいとして、「自他尊重の重要性の気づきと、環境を整えることを含めた望ましい人間関係の構築および意思決定・行動選択ができること」を踏まえることとした。

教材の特徴としては、「性に関する心身の事象や性感染症について総合的、科学的に理解できること」「理解を促す過程で、既習の知識を活用することができること」その指導方法として「生徒の実態に即して使用することができること」を踏まえることとした。

表1 性に関する対話的学びの展開に向けたよりよい保健授業の特徴から考察した教材の視点

対話的学びの展開に向けたよりよい性教育授業の特徴		教材開発の際に踏まえるべき視点
学習内容が、学習者自身と関係が深いと捉えられる工夫をしていること。	➡	生徒自身が、将来経験するかもしれないと思うような身近な題材をテーマとする。
学習内容について「性の心理・倫理側面」を補完していること。	➡	性の科学的な知識をもった上で、自己や他者の「性の心理・倫理的側面」について知り、考えるものとする。
生々しいと捉えられる視聴覚表現を避け、提示する場合は事前に説明などを行っていること。	➡	生々しいと捉えられるような言語表現やイラストを使用しない。
対話的な学習の進め方やねらいなどを説明していること。	➡	教材の説明書などに活動のねらいやルールについて記載し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。
授業のねらいや学習者の実態に応じて、男女別授業や同性教師からの学習指導などの工夫をしていること。	➡	授業形態として、生徒が対話的な学習活動に取り組みやすくするために、男女別の少人数班を編成する。

②ピアエデュケーションの視点

本教材にピアエデュケーションの視点を組み込むこととした。そこで、本教材における同世代での対話的な学びを「ディベート（異なる立場に分かれ議論する）」や「話し合い（単一の答えを導く）」と区別し、様々な意見を伝え・聞き合う「語り合い」と名付けた。

③ゲーム教材としての視点

「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の教授方法として、ゲームの要素を取

り入れたものがある¹⁷⁾。ゲームを利用した学習には「モチベーションの維持・喚起」「全体像の把握や活動プロセスの理解」「安全な環境での体験学習」「重要な学習項目を強調した学習体験」などのメリットがある¹⁷⁾。そこで本教材にゲームの要素を取り入れることとした。

標葉ら¹⁸⁾は「授業で活用する手軽さ」を考慮し、カード教材の開発を行っている。そこで本教材においても、ゲームサイズが持ち歩き可能であること、ルールやプレイ時間を柔軟に調節できること、教師が生徒の実態に応じて扱う内容を選択できること、設定された活動のルール・やり方を一目

で理解できる説明書があることを要件とした。そこで、これらの要件が全て当てはまるカードゲーム型の教材を作成することとした。その際に、コミュニケーションゲームの要素を持った、既存の防災教育カードゲーム「クロスロード」^{注1)}を参考とした。

本教材の問題カードを作成するにあたり、性に関する健康課題のキーワードを選定するため、保健教科書^{19) 20)}の「生涯を通じる健康」単元で記載されている語句および、先行研究^{21) 22)}における青少年の性に関する健康問題や課題、「学習を希望する性教育内容¹²⁾」を抽出した。問題カードの内容や文言については、教育学を研究する大学院生5名および医学博士の学位を有する教員1名と検討した。

2.2 開発教材のねらい

以上の教材開発の視点を踏まえ、本教材を用いた語り合いのねらいを4点設定した。

- ①性を『自分のこと』として捉える。
- ②実際に行動に移すことを想定した答え(YES/NO)とその理由を、制限時間内で導き出す思考力や判断力を育む。
- ③自分の考えを表現することで自己理解につなげる。
- ④多様な意見を受け入れ、多くの人が受け入れ可能な結論を引き出し、実際に実行するための練習とする。

3. 授業実践と評価

3.1 対象・期日

G県のA高校(クラス1)およびB高校(クラス2~5)の第2学年187名(男子62名、女子125名)を対象に、2017年7月に授業を実施した。各校の特徴として、A校は高校卒業後の進路として進学する者が多く、ディベート大会など言語活動を取り入れた学習を多く実施している。B校は、卒業後の進路としてA校よりも就職する者が多く、商業に関する専門教科がカリキュラムに組み込まれている。

3.2 実践の概要

3.2.1 授業計画

開発教材「CROSS OPINION」を用いた語り合い活動が主活動となる1時間(50分)の授業を各校の保健授業担当者が実施した。各授業の生徒と担当教師の情報は表2に示す。なお、授業は筆者作成の指導計画を参考に進めてもらった。

それぞれの授業で語り合い時間は異なるが、全てのクラスで「生涯を通じる健康」単元の「思春期と健康」「結婚生活と健康」の内容を学習した後のまとめの授業と位置づけ、問題カードのテーマとなる健康課題について既習した状態で実施した。

授業のめあては「性に関する考え方は、人それぞれ違うことに気づこう(関心・意欲・態度)」「性についての自分の考えを伝え、仲間の意見を聞くことで、自分の考えをより深めよう(思考・判断)」と設定した(表3)。全5授業で同一内容の授業を展開するために、授業者と話し合い、授業案の大枠は統一しながらも、細かい時間の設定などは授業ごとに対応した。

また、打ち合わせの際に授業者から「YES/NO」の選択が少数派(4人班の中で1人だけYES/NO)だった生徒への配慮が必要という指摘を受けたため、「虹色ハート」というルールを適応した。「虹色ハート」は「CROSS OPINION」の説明書に記載した特別ルールである。

表2 対象授業の情報

授業	生徒数(班数)			教師				
	男子	女子	計	教師	立場	性別	教員歴	
クラス1	A校	13(3)	20(4)	33	T1	非担任	男性	7年
クラス2	B校	13(3)	28(7)	41	T2	非担任	女性	17年
クラス3		12(3)	28(7)	40		担任		
クラス4		12(3)	26(7)	38	T3	非担任	男性	6年
クラス5		12(3)	23(7)	35		担任		

表3 授業の流れ

【目標】・ブレインストーミングや語り合いを通して、性に関する考え方は人それぞれで違うことに気づける
 ・性についての自分の考えを伝え、仲間の意見を聞くことで、自分のより良い生き方や人間関係の築き方について考えより深められている

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 15分 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの復習 ・男女別班の編成 ・ブレインストーミング(○○○らしき) ・男子班は「おんならしき」、女子は「おとこらしき」と聞いたイメージワードを時間内にできるだけ多く書く ・班ごとに発表、クラスで共有 ・教師はイメージワードを板書する 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯の各段階でどのようなライフイベントがあるか質問する ・「今日は、みんなが将来経験するかもしれないライフイベントに関する健康課題と向き合って、人生の選択をしてもらいます」というような、今日の活動に関心と見通しを持たせる言葉がけを行う ・書記係を1人設けるよう指示する ・個人に関することや中傷的なことは書かないことを告げる ・一番多く書けた班を称賛する ・需要的に意見を受け入れる ・教師自身に当てはまる両方の「両方」を紹介(男性教師で「筋肉(おとこらしき)」と「きれい好き(おんならしき)」など) ・「らしき」は性別などの枠組みではなく、「自分らしき」としてその人らしい「良いところ」であることを説明する
めあての提示	<ul style="list-style-type: none"> ・性に対する考え方は、人それぞれ違うことに気づこう ・性についての自分の考えを伝え、仲間の意見を聞くことで、自分の考えをより深めよう 	
展開 20分 25分	<ul style="list-style-type: none"> ・説明書を用いて「CROSS OPINION」のルール、約束の説明 ・語り合い活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイマーや時計を使って時間を調整する ・机間支援を行う ・語り合いが停滞している班に、「なぜ選択をしたの?」「どうやって説得する?」「同じYESでも理由も同じ?詳しく説明して」と言った語り合いが発展するような介入を行う
まとめ 10分 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・感想シートの記入 ・個人で発表、クラスで共有 ・指名された生徒は、感想を読み上げる ・教師の本時のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・記入時に机間巡視を行う ・感想に対する肯定的・需要的なフィードバックを行う ・必要に応じて「○○さんと同じで、いろいろな意見があったことに関する感想を書いた人?」「～さんと同じでNo.12のポスターを取るかどうかの問題が1番迷った人?」のように感想の内容をクラス全体で共有する ・めあてに触れながら、語り合いを通した学びについての総括を行う (例)「自分の考えを持つことも大事だし、相手と語り合って初めて知れることもある」「健康的に生きるためには、正しい知識や多様な意見を知って、自分の考えを深めることも大切」「今日学んだことを、みんなの人生を良くするために活かして欲しい!」

評価規準

- ・性に関する考え方は、人それぞれで違うことに気づける(行動観察、感想)
- ・性についての自分の考えを伝え、仲間の意見を聞くことで、自分の考えをより深められている(行動観察、感想)

「YES/NO」の答えが班で1人だけだった場合に、少数で貴重な意見という理由から「虹色ハート」を獲得できる。さらに「よい考え」や「面白いと思う意見」を言った班員に与えることができる。今回は「虹色ハート」の枚数を競うねらいはないが、「虹色ハート」を獲得した生徒を活動終了後に称賛することとした。「虹色ハート」の使用は自由であることを各授業者に伝えた結果、本対象の全5クラスで取り入れられた。

3.2.2 班編成

語り合い活動を行う班は、3~5人の男女別班にすることを指定し、生徒の構成は授業者に委ねた。その結果、全クラスが普段の学校教育活動におけ

る班別活動で用いられている名簿順の編成であった。

3.2.3 問題カードの選定と活動時間

問題カードの種類と枚数は、既習内容や生徒の実態を考慮して授業者と検討した上で選定した。また、問題1問あたりの活動時間は、4~5分が適当であることを伝え、設定は各授業者に委ねた。その結果、全5クラスが4分または4分30秒を制限時間として設定した。しかしながら、授業時間の配分や語り合いの様子から、時間を調整している場面がみられた。各授業で用いた問題カードの使用順と活動時間を表4に示す。

表4 使用問題カード順と活動時間

	1問目	2問目	3問目	4問目	5問目	6問目
クラス1	(No.)問題 時間(秒)	(8)姉の外泊 240	(18)仕事と家族計画 270	(17)妊娠と喫煙 270	(12)ポスター 250	
クラス2	(No.)問題 時間(秒)	(2)SNS 250	(5)月経前症候群 300	(18)仕事と家族計画 260	(16)妊娠と飲酒 210	
クラス3	(No.)問題 時間(秒)	(2)SNS 250	(5)月経前症候群 300	(8)姉の外泊 260	(14)性器ヘルペス 250	(17)妊娠と喫煙 225 (19)血友病 200
クラス4	(No.)問題 時間(秒)	(4)携帯履歴 240	(6)復縁 240	(8)姉の外泊 240	(12)ポスター 240	(16)妊娠と飲酒 240 (18)仕事と家族計画 240
クラス5	(No.)問題 時間(秒)	(4)携帯履歴 240	(6)復縁 240	(8)姉の外泊 240	(12)ポスター 240	(16)妊娠と飲酒 240 (18)仕事と家族計画 240

3.3 評価

授業評価として、授業評価項目¹³⁾ 17問に、筆者が作成した語り合い活動評価に関する項目3項目を加えた全20項目(表5)の授業評価票を作成し、先行研究と同様に5件法(「とてもそう思う」「そう思う」を3点、「どちらともいえない」を2点、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を1点)で回答を求めた。さらに、授業に関する感想の記述を求めた。

表5 評価項目

	評価項目
保健 授業 評価	1 多角的な考え方ができた。
	2 授業中に、新しい発見があった。
	3 今日の授業は、学習目標(めあて)が達成できた。
	4 授業は、興味深い内容だった。
	5 授業中に、クラスメイトたちとお互いに協力することがあった。
	6 今日の授業は、長い間印象に残るものだった。
	7 今日の授業は、重要な点が明瞭であった。
	8 今日の授業を通して、自分自身の変化や成長があった。
	9 今日の授業は、生活を見直す機会となった。
	10 今日の授業は、生活に役立つものであった。
	11 今日の授業は、生徒の側に立ったものであった。
	12 今日の授業はわかりやすかった。
	13 先生が熱心であった。
語り 合い 活動 評価	14 今日の授業で、自分の存在が認められていた。
	15 今日の授業は、積極的に活動したい雰囲気だった。
	16 一生懸命学習に取り組むことができた。
	17 授業中に、クラスメイトと教え合ったりできた。
	18 性について語ることは難しい/やさしい
	19 性について語ることはつまらない/楽しい
	20 カードを用いた学習はやりたくない/やりたい

3.4 分析方法

保健授業および語り合い活動の評価は、各項目の平均値から分析した。分析にはMicrosoft Excel 2010を使用した。また、先行研究¹³⁾と同様に、「とてもそう思う」「そう思う」を「はい」、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を「いいえ」として割合を算出した。

感想文は「今日の授業の感想や、学んだこと」について自由記述を求めた。分析は、文章分析ソフトのKH Coderを用いた。まず、各授業で多く用いられた言葉を明らかにするため、頻出語を抽出した。分析に使用した品詞は「名詞」「サ変名詞」「形容動詞」「感動詞」「動詞」「形容詞」「副詞」であった。その後、頻出された語同士のまとまりから感想の内容を概観するため、共起ネットワークを作成した。さらに、語のまとまりとしては読み取れないが、感想の内容として多く抽出された内容についても整理を行った。

3.5 倫理的配慮

授業実践の前に、各高校の学校長および授業担当の保健体育教員に研究の目的や授業の内容を口頭および紙面にて説明した。撮影した映像や音声、授業評価の結果に関しては、筆者にて厳重に管理し、生徒のプライバシーの保護に努めることも説明し、承諾を得た。

III. 結果

1. 開発教材「CROSS OPINION」

1.1 教材の内容

「CROSS OPINION」は「19種類の問題カード」(図2、表6)、「YES/NOカード(1セットに5枚)」、「説明書」で構成した。

問題カードには、与えられる役柄(あなたは○)と立たされている状況、「YES/NO」どちらを選択するか、といった文章を記した。そして、立たされている状況として、他者と望ましい人間関係を築くことといった性の心理・倫理的側面について考えられるよう、特定の健康課題に直面した

というシチュエーションを設定し、既習の知識を活用しながら健康課題の解決に向けて、語り合えるような仕様とした。また、与えられる役柄は、性行為や結婚・出産、飲酒や喫煙を題材とする問題では「成人(男性・女性)」「妊婦」と設定した。さらに、多様な考え方やパートナーの気持ちになって考えることができるよう、自身とは異なる性別として考えさせる問題を作成した。例えば、男子生徒でも「成人女性」「妊婦」になったつもりで考えるようにした。作成した初版の教材を用いて模擬授業を実施し、授業評価および検討会で出た疑問点や改善案から、問題カードの内容や文言を一部修正・再構成し、全19種類の問題カードを作成した。

説明書には、教師および学習者が語り合い活動を円滑に行うために「1.クロスオピニオンとは?」「2.ゲームの流れ」「3.語り合いのやくそく」「4.ゲームのルール」を記した。裏面には、ゲームの進め方をイラストで記載した。

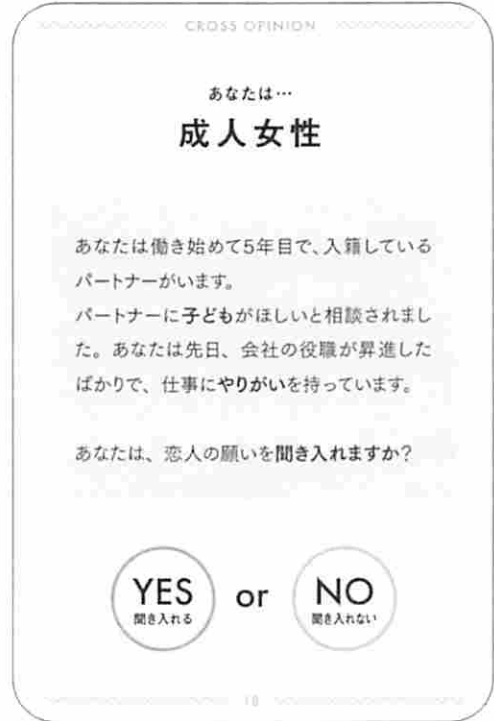


図2 問題カード例

表6 問題カードの内容

NO.	役	問題
1	高校生	あなたの友人が、ダイエットを始めました。友人は日ごとに痩せて満足そうですが、顔色は悪く元気もないように見えます。友人には「最近、体重が落ちない。諦めないように応援してほしい。」と言われました。あなたは、友人のダイエットを応援しますか。
2	高校生	あなたの友人が、SNS(ソーシャルネットワークサービス)で知り合った同じ地元の高校生と週末に会うそうです。「不安だから一緒に待ち合わせ場所にきてほしい。」と相談されました。あなたは友人と一緒にいきますか。
3	高校生	あなたの友人に恋人が出来ました。友人は、デートの度に食事代や交通代を支払っているそうです。友人が以前、お金はたまには出し合っしてほしいと言うと、友人の恋人は不機嫌になったため我慢をすると言っています。あなたは、友人に賛同しますか。
4	高校生	あなたの恋人は、あなたの携帯電話のメールやSNSの履歴や内容をあなたに確認せずに見ます。恋人は、「恋人なんだからいいよね。それともやましいことがあるの。」と言います。あなたは、恋人に勝手に携帯を見ないでほしいと言いますか。
5	高校生	あなたの女性の友人は、月経前になると腹痛や頭痛がひどく、精神的にも不安定になります。友人が「今日は月経で体調が悪いから、係の仕事を変わってほしい」とお願いしてきました。彼女の仕事の代理をするのは今まで何度もありました。あなたは彼女の願いを聞き入れますか。
6	高校生	あなたは、以前交際をしていた人から頻繁に復縁を持ちかけられています。断りましたが、最近ではあなたの家や学校付近で待ち伏せをされています。それ以外は嫌がらせなどはありません。あなたは、今の状況のまま様子を見ますか。
7	高校生	あなたには、交際したいと思っている人がいます。頻繁に連絡をしていましたが、突然返信が少なくなりました。共通の友人に相談すると、「あなたからたくさん連絡がきて困っているみたい。連絡をとるのをやめたら。」と言われました。あなたは、相手と連絡をとり続けますか。
8	高校生	あなたには高校生の姉がいます。姉は、最近親が仕事の夜勤で家にいない日に、友人の家を外泊します。姉は「友だちの家だから大丈夫だよ。でも面倒だからお母さんとお父さんには黙っておいて。」と言います。あなたは姉の外泊について親には内緒にしますか。
9	高校生	最近、あなたと親しいグループの友人たちがピアスを付け始めました。友人たちに、おそろいでピアスをつけようと勧められています。あなたはピアスの穴は空いていません。あなたは、友人たちと一緒にピアスを付けますか。
10	高校生	あなたには恋人がいます。ある日、恋人に「頻繁に連絡を取ってほしい。メッセージを送ったらもっと早く返信して。」と言われました。あなたは恋人の願いを聞き入れて、頻繁に連絡を取るようになりますか。

NO.	役	問題
11	高校生	あなたのクラスにHIV感染をしている転校生が来ました。転校生は気さくでユーモアがあり、すぐにクラスに馴染みました。二週間後に修学旅行があります。あなたは、転校生を宿泊や行動を共にするグループに受け入れますか。
12	社会人	あなたは会社員で、部下たちに慕われています。ある部下が、会社に貼られているポスターのグラビアアイドルの写真が不快なので、ポスターを取ってほしいとお願いしてきました。そのポスターは会社の販売商品のもので、あなたの上司が貼ったものです。あなたは、ポスターを取り外しますか。
13	成人男性	あなたには交際している恋人がいます。性行為をする際に「今日は安全日で子どもはできないと思うから避妊は必要ない。」と言われました。お互いまだ、結婚や家族計画の予定はありません。あなたは、恋人の願いを聞き入れますか。
14	成人	あなたには恋人がいます。あなたは性器に痛みを感じ病院を受診すると性器ヘルペスでした。性器ヘルペスは、性行為以外でも感染し、病院で治療することができます。あなたは恋人以外に性行為をしたことはありません。あなたは恋人に性感染症になったことを打ち明けますか。
15	成人女性	あなたには恋人がいます。お互いまだ、結婚や家族計画の予定はありません。そこで恋人がピル(経口避妊薬)を服用して欲しいとお願いしてきました。あなたは、恋人の願いを聞き入れますか。
16	成人男性	あなたのパートナーが妊娠しました。パートナーは妊娠前から飲酒をほぼ毎日しており、以前禁酒を試みましたが、失敗しています。妊娠した今も、量は今までより減りましたが飲酒を続けています。あなたは、パートナーに禁酒をするように再度言いますか。
17	妊婦	あなたのパートナーは喫煙者です。禁煙して欲しいとお願いすると「仕事の付き合いもあるし、ストレス発散でもあるから、一緒にいる時以外は喫煙させてほしい。」と言われました。あなたは、パートナーの願いを聞き入れますか。
18	成人女性	あなたは働き始めて5年目で、入籍しているパートナーがいます。パートナーにそろそろ子どもがほしいと相談されました。あなたは先日、会社の役職が昇進したばかりで、仕事にやりがいを持っています。あなたは、恋人の願いを聞き入れますか。
19	成人女性	あなたには、結婚を前提に交際している恋人がいます。あなたの父親は血友病で、あなたは血友病の遺伝子をもっています。血友病は、血が止まりにくい病気です。ほとんどが男性に発症し子や孫へ遺伝します。あなたは、自分が血友病の遺伝子をもっていることを恋人に伝えますか。

1.2 活動の方法

活動の流れは、以下の通りに設定した。

- ①3～5人のグループを編成する。
- ②班員の1人が問題カードを引き、問題文を読む。
- ③YES/NOの選択とその理由を考える。
- ④YES/NOカードを一斉に出し、選択した理由を1人ずつ発表する。
- ⑤班員全員の発表が終わったら、時間まで問題に関するフリートークを行う。

1.3 活動中のルールの決定

語り合いを効果に行うために、活動中のルールを設定することとした。

その結果、ピアカウンセリングにおける「グラウンドルール」⁶⁾を参考に、以下の6項目を定め、「語り合いのやくそく」として説明書に記載した。

- ①守秘義務を必ず守ってください。
- ②自分のペースで参加し、うち解けてください。
- ③話をする時は、自分の経験からするように心がけてください。
- ④発言は一人ずつにしてください。
- ⑤批判、決めつけにならないようにしてください。
- ⑥時間は必ず守ってください。

2. 授業評価

2.1 保健授業評価

クラスごとの保健授業評価の平均点は表7の通りである。

表7 保健授業評価の各授業の平均点

質問項目	クラス1	クラス2	クラス3	クラス4	クラス5	
十分な学習活動	1 多角的な考え方	3.00	3.00	3.00	2.97	2.97
	2 新しい発見	3.00	3.00	2.80	2.89	2.89
	3 めあての達成	3.00	3.00	2.85	2.87	2.97
	十分な学習活動次元	3.00	3.00	2.88	2.91	2.94
印象に残る	4 興味深い内容	2.97	2.98	2.98	2.86	2.86
	5 クラスメイトと協力	3.00	2.98	2.93	2.86	2.94
	6 長い間印象に残る	2.76	2.93	2.88	2.55	2.57
	印象に残る次元	2.91	2.96	2.93	2.76	2.79
生活に役立つ	7 重要な点が明瞭	2.88	2.98	2.90	2.66	2.83
	8 自分自身の変化や成長	2.73	2.80	2.38	2.39	2.43
	9 生活を見直す機会	2.64	2.88	2.70	2.53	2.51
	10 生活に役立つ	2.80	2.95	2.85	2.71	2.54
	生活に役立つ次元	2.94	2.91	2.71	2.57	2.58
わかりやすい	11 生徒の側に立っていた	2.79	2.95	2.80	2.79	2.66
	12 わかりやすい	2.94	3.00	2.98	2.87	2.97
	13 先生が熱心	3.00	2.98	2.98	2.92	2.86
	わかりやすい次元	2.91	2.98	2.92	2.86	2.83
	総合	2.90	2.95	2.85	2.76	2.77

総合平均点は、最高が「クラス2」の2.95、最低が「クラス4」の2.76であった。「クラス1・2・

4・5」で「十分な学習活動全体」が最も高かった。項目ごとにもみると「多角的な考え方」が全5クラスで最も高く、複数の項目で満点の3.00点がみられた。

各項目の「はい・いいえ」の割合は表8の通りであった。

「多角的な考え方」「わかりやすい」において「はい」が100%であり、次いで5項目が99%であった。しかし、「自分自身の変化や成長」「生活を見直す機会」では95%を下回っていた。

表8 保健授業評価「はい・いいえ」の割合

質問項目	本授業(N=187)	
	はい	いいえ
十分な学習活動	1 多角的な考え方	100 0
	2 新しい発見	99 1
	3 めあての達成	99 1
印象に残る	4 興味深い内容	99 1
	5 クラスメイトと協力	99 1
	6 長い間印象に残る	95 5
生活に役立つ	7 重要な点が明瞭	97 3
	8 自分自身の変化や成長	88 12
	9 生活を見直す機会	94 6
	10 生活に役立つ	97 3
わかりやすい	11 生徒の側に立っていた	97 3
	12 わかりやすい	100 0
	13 先生が熱心	99 1

(%)

2.2 語り合い活動に関する評価

クラスごとの語り合い活動に関する評価の平均点は表9の通りであった。

「自己の存在が認められていた」「積極的に活動したい雰囲気」「一生懸命学習に取り組む」「クラスメイトとの教え合い」で満点のクラスがあった。また、独自項目を全クラスの平均点で見ると「性について語ることはやさしい」では1.98、「性について語ることは楽しい」では2.56、「カードを用いた学習をやりたい」では2.86であり、「性について語ることはやさしい」の項目が他の2項目と比べて低いことがわかった。

表9 語り合い活動に関する平均点

質問項目	クラス1	クラス2	クラス3	クラス4	クラス5
自分の存在が認められていた	3.00	2.88	2.75	2.71	2.74
積極的に活動したい雰囲気	3.00	2.95	2.90	2.71	2.91
一生懸命学習に取り組む	3.00	3.00	2.95	2.97	2.97
クラスメイトと教え合ったりできた	3.00	3.00	2.93	2.92	2.94
性について語ることはやさしい	2.61	1.80	1.65	2.08	1.77
性について語ることは楽しい	2.73	2.62	2.43	2.45	2.60
カードを用いた学習はやりたい	2.97	2.90	2.79	2.76	2.86

(点)

2.3 授業の感想

総抽出語は 8874 であり、その内 2023 の語が分析に使用された。各クラスの頻出 5 回以上の語を整理した (表 10)。

次に、各クラスの頻出語が同様の傾向であったことから全 5 クラス合わせて品詞分析を行った。共起ネットワーク (描画数 60) (図 3) は、単語を

結ぶ線が太いほど関連が強く、「水色、白、ピンク」の順に媒介中心性が強く、円が大きいほど語の出現率が高いことを意味している。図 3 では、「楽しい」「授業」「思う」「考え方」「大切」がピンク色 (枠を破線で表記) であり、濃淡はあるが他の色つきの単語は水色および白であった。

表 10 各授業の頻出語と回数

クラス1 1280(310)	クラス2 1805(412)	クラス3 1911(459)	クラス4 1890(408)	クラス5 1854(402)
抽出語 回数	抽出語 回数	抽出語 回数	抽出語 回数	抽出語 回数
意見 24	思う 38	意見 48	思う 36	意見 57
考える 13	意見 35	自分 30	意見 35	思う 29
思う 12	自分 19	思う 29	自分 34	違う 25
自分 12	授業 18	考える 26	考える 22	自分 22
ゲーム 10	考える 14	違う 18	考える 18	考える 13
カード 9	違う 11	考える 14	違う 14	考える 11
違う 7	考える 10	聞く 14	考え方 12	考え方 10
楽しい 6	聞く 10	考え方 9	授業 12	授業 10
考え 6	機会 8	授業 9	大切 9	色々 7
考え方 6	ゲーム 5	感じる 6	立場 8	聞く 6
持つ 5	聞ける 5	機会 6	持つ 7	楽しい 5
大切 5	話 5	話し合う 6	気持ち 6	大切 5
立場 5		話す 6	相手 6	難しい 5
良い 5		グループ 5	知る 6	分かる 5
		楽しい 5	学ぶ 5	
		関係 5	楽しい 5	
		大切 5	尊重 5	
		分かれる 5	聞く 5	
		立場 5	様々 5	

総抽出語数(使用語数)

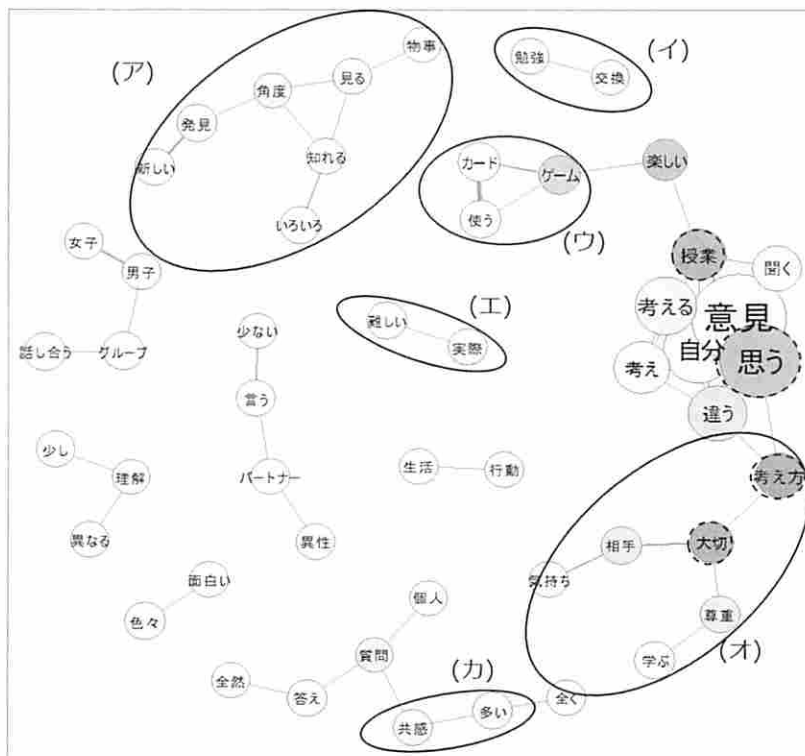


図 3 感想の共起ネットワーク

表 11 共起ネットワークから読み取れたカテゴリ別の感想

カテゴリ	感想文(原文のまま記載)
(ア) 新しい発見	普段、友達と語らない内容だったので、新しい発見をたくさん見つけられたと思う。ちょっと違う角度から物事を考えてみるといろいろな意見がとびかっけて、とても勉強になった。 今日の授業で、みんなのいろいろな角度から見た意見を知れたのでよかったです。友達の意見を聞いてみると、いろいろな発見がたくさん見れてとてもおもしろくて楽しい時間になりました。
(イ) 意見の交換を通じた勉強	4人の班でも、たくさんの意見がだされたというふう感じた。そして、意見交換して、共感した部分や自分と違った発想を持っていて学ぶことができたりしてとても勉強になった。 カードゲームで意見を交換したり、〇〇〇らしきについて考えたり、とても楽しくできて勉強になった。どんなことでも、独自に決めるんじゃなくて話し合いでお互いの意見を尊重することが大切なんだとわかった。
(ウ) カードゲームの楽しさ	(前略)また「カード」を使うことで、ただ話し合うよりも良い意味で軽々と、楽に話し合うことができた。 カードゲームを使っている授業はとても楽しかったです。わかりやすかったし、やる気ができました。今日は、しっかり考えたり共有できてよかったです。
(エ) 意思決定や問題の難しさ	実際にありえる話があっという間いろいろ考えることができよかったです。またこの時間を通して自分が判断することが難しいこともあったので、とてもいい経験ができた1時間でした。 質問が難しいこともあったけど、同じYes、Noでも全然考え方が違って多くの考え方で、ひとつの答えが正しいわけがないことを改めて理解することができました。また、実際に自分がカードのような状況になった時にどうした方がいいのか、班の人の考えを含んで、少し答えが導き出せたような気がします。
(オ) 相手の気持ちを尊重する大切さ	今日の授業で、人それぞれ考え方がちがったり、同じ考えだったり、個人でいろいろあったので相手のことをよく考えて意見を尊重することも大切だなと思った。 今日の授業で、色々な場面になったとき、人それぞれ、思うことややることが全然ちがうんだなあと思いました。なので、相手の気持ちも尊重しなければいけないし、時には自分も意見を言わなくてはいいないと思います。全然考えなかったことが知れて、よかったです。
(カ) 他者の意見への共感	みんなの意見がほとんど一緒で共感することが多かったです。でも、自分だったらと考えると、いろんな考えがうかんで、おもしろかったです。 普段そんなに話さない人と、たくさん意見を言い合えておもしろかった。質問が究極すぎて難しかったけど、いろいろな意見を聞いて共感できる部分も多かった。今後もまた違う人とやってみたいと思うくらい楽しいゲームだった。

表 12 今後の意欲、踏まえるべき視点に関する感想

カテゴリ	感想文(原文のまま記載)
意見を伝えることに関する今後の意欲	性について今まで授業をしていて異性との関わりで大切なことはお互いの考えは異なり、尊重しあうべきだと学んだので、私も将来パートナーができたときに、子どもをつくりたいと思ったときや、将来のことについてきちんと話をしていきたいと思いました。 自分とは異なる性に関する意見を共有できて理解できる部分も多かった。今後も、他人の意見を尊重していきたい。
身近なテーマとする	自分には関係がないと思っている内容について、みんなで意見を言い合うことによって、身近なことに感じ、広い視野から考えることができた。また、他の人の意見から、新しい発見をすることができた。 今後自分に起こるかもしれない問題についてしっかり話し合うことができた。見方や考え方は人それぞれ違ったけど、相手を意見を受け入れることの大切さも知ることができたのでよかったです。
語り合いの説明、ルール設定	いろんな人によって立場が違うので、いろんな意見が聞いて良かったです。カードゲームのやり方なので授業もやりやすかったです。 同級生とパートナーとの関係について、積極的に話せる機会は少なかったが、授業でゲーム感覚で話せたので、わりと本音を言ったり、聞いたりすることができていたと思う。こういった機会は今まであまり無かったので、しっかり話せる時間にできて良かったと思う。
男女班の編成	いつもと違う授業の形で男女席がはなれていることもあって話しやすかったです。また、一つの班が少人数なので自分の意見を話しやすく話し合いがやりやすかったです。今日の授業で、同じテーマで話していても様々な意見が出ておもしろいと思いました。
点	今日みたいにグループで話し合うのは、いいなと思った。同性だから性についても話しやすかった。将来、自分にあった、対応を考え、相手の気持ちも考えようと思った。

続いて、共起ネットワークから読み取った語のまとまりを、実際の自由記述と照らし合わせて、文章の意味合いが同様で特徴的なものを整理した。その結果6つのカテゴリに分類できた(表11)。また、共起ネットワークでは抽出されなかったが「意見を伝え合うことに関する今後の意欲」や、性に関する対話的学びの展開に向けた学習者から見たよりよい保健授業の特徴から考察した踏まえるべき視点に関する肯定的な感想が見られた(表12)。

IV. 考察

1. 保健授業評価

生徒は語り合い活動を通して、様々な考え方に会っており、満足感を抱く学びとなっていたことが評価できた。

表8の割合をみると、全体的に「はい」の割合が高く、本授業および学習活動の評価の高さが窺えた。しかし「自分自身の変化や成長」が88%、「生活を見つめ直す」が94%と他項目と比較して

やや低い。

「自分自身の変化や成長」の評価が低い理由として、自分では考えつかなかった多様な選択肢に出会うことはできたが、それらの意見を自分の考えの中に取り込むことができない段階であったことが推察された。

さらに、「生活を見直す」の評価がやや低い理由として、本教材は、生徒が今の生活を見直して改善する必要があると自覚するような状況設定には限定しておらず、今後起こるかもしれない健康課題を取り上げ、予防的に学び、考えることに意味を置いている。これは、授業の感想として「将来このようなことが起きたら～」というような今後の意欲についての記述が多いことから、教材の目的は達成されたと評価できる。よって今後は、「生活を見直す」という評価項目が本研究において妥当であったかということについて、検討が必要であると考えられる。

以上のことから、今後の課題として、CROSS OPINION のねらいにおいて、多様な意見に出会うことだけにとどまらず、他者の意見が自己の考えや生き方をより良くすることについて示すことや、他者の意見を聞いた上で自身の意見の再考を促す教師の介入など、指導上の工夫が挙げられる。そのために、語り合い活動中の発話分析などを通して、このような結果が生じた理由について検討する必要がある。

2. 語り合い活動に関する評価

クラスによって「自己の存在が認められていた」「積極的に活動したい雰囲気」「一生懸命学習に取り組む」「クラスメイトとの教え合い」の点数が高く、語り合い活動に肯定的かつ主体的に取り組んでいたことが確認できた。

また、独自項目の平均点から、生徒は性について語り合うことに真剣に取り組む、その難しさを感じながらも、楽しさやまたやりたいという意欲を抱いたことが推察できた。

3. 授業の感想

全クラスで「意見」「思う」「考える」「自分」といった語が上位であったことや、整理できた各カ

テゴリの内容から、多様な意見の語り合いを通して新たな発見があり、肯定的・受容的な雰囲気ですり合い活動が進められていたことが推察できた。

また、本授業のめあてや「CROSS OPINION」のねらいが達成されており、語り合い活動を通して、互いの思いを大切にしたいなどの今後の実践意欲につながったことが確認できた。さらに取り入れた具体的手立てが、生徒の語り合いを促進させる要因として有効に作用していた示唆が得られた。

V. 研究の成果と今後の課題

1. 研究の成果

性に関する健康課題に対して「YES/NO」の選択を行い、その理由について既存の知識を活用して考え、意見を語り合うカードゲーム型教材「CROSS OPINION」を開発した。

開発教材「CROSS OPINION」および語り合い活動を取り入れた提案授業は、授業のめあてや教材のねらいが達成されていた。特に、語り合いを通して多角的な考え方に触れることや、将来経験するかもしれない性に関する健康課題への対処のために、パートナーの思いを尊重することなどの実践意欲を抱いた点から、本教材の有効性が示唆された。

2. 今後の課題

開発教材「CROSS OPINION」の有効性をより詳細に評価するため、生徒の語り合い活動中の発話の分析を行う必要がある。また、語り合い活動に関する評価項目である「性について語ることはやさしい、難しい」「性について語ることは楽しい、つまらない」といった回答についても、その理由をたずねるなど、より詳しく調査し、分析する必要がある。

注

- 1) クロスロード²³⁾とは、「大都市大震災軽減化特別プロジェクト(文科省)」の一環として開発

されたカードゲーム形式の防災教材である。2004年7月に、最初となる「神戸編・一般編」が完成し、その後「市民編」、「高知編」、「学校安全編」などが作成されている。

参考文献

- 1) 財団法人日本児童教育振興財団内日本性教育協会：「若者の性」白書第8回青少年の性行動全国調査報告，小学館，2019.
- 2) 文部科学省：小学校学習指導要領解説体育編，2019.
- 3) 文部科学省：中学校学習指導要領解説保健体育編体育編，2019.
- 4) 文部科学省：高等学校学習指導要領解説保健体育編体育編，2019.
- 5) 今野木綿子・西脇春美：大学生における性知識・性モラルと性行動との関係，山形保健医療研究，9，33-47，2006.
- 6) 高村寿子：思春期の性の健康を支える ピアカウンセリング・マニュアル，小学館，2005.
- 7) 高村寿子：ピアカウンセリングの手法を用いた性教育の理念と方法，思春期学，21（1），127-131，2003.
- 8) 前田ひとみら：高校生を対象とした大学生による思春期ピアカウンセリングの評価（I），南九州看護研究史，5（1），11-18，2007.
- 9) 前田ひとみ：高校生と大学生のピアカウンセリングによる性教育の評価，熊本大学医学部保健学科紀要，4，97-105，2008.
- 10) 忠津佐和代ら：ピアカウンセリング手法を用いた思春期性教育とその実践，川崎医療福祉学会誌，12（2），259-270，2002.
- 11) 石井里佳ら：中学校における性教育の現状と課題—群馬県における保健体育教員の性教育に関する実態調査に着目して—，北関東体育学研究，2，31-38，2017.
- 12) 石井里佳ら：性に関する対話的学びの展開に向けた学習者からみたよりよい保健授業の特徴—学生の既習状況および学習ニーズに着目して—，保健科教育研究，4，21-30，2019.
- 13) 白石龍生・白石大悟：科目保健の生徒による授業評価についての研究，大阪教育大学紀要第V部門62（1），71-78，2013.
- 14) 中央教育審議会：学校教育全体（教科横断的な内容）で取り組むべき課題（食育，安全教育，性教育）と学習指導要領等の内容3性教育について，文部科学省，2005.
- 15) 文部科学省：学校における性教育の考え方・進め方，2009.
- 16) 文部科学省：高等学校学習指導要領解説保健体育編体育編，2009.
- 17) 藤本徹：シリアスゲーム—教育・社会に役立つデジタルゲーム，東京電機大学出版局，2007.
- 18) 標葉靖子ら：科学技術と社会への多角的視点を涵養するためのカードゲーム教材の開発，科学教育研究，41（2），161-169，2017.
- 19) 和唐正勝ら：最新高等保健 体育. 大修館書店，63-75，2014.
- 20) 和唐正勝ら：現代高等保健体育，株式会社大修館書店，63-79，2012.
- 21) 平岩幹男：思春期の子どもたちを取り巻く現状と背景，小児診療，20（2），235-240，2008.
- 22) 財団法人日本児童教育振興財団内日本性教育協会：「若者の性」白書第7回青少年の性行動全国調査報告，小学館，2013.
- 23) 吉川肇子ら：クロスロード・ネクスト—続：ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション，ナカニシヤ出版，2009.

Highschool health class that effectively encourages interactive learning: Development, practice, and evaluation of teaching material in type card game “CROSS OPINION”

Rika ISHII ¹⁾ Keiko KIYAMA ²⁾ Tomonori SHIMOFURE ³⁾ Yoshiki KANEKO ⁴⁾

Key words: sexuality education, high school, health class, interactive learning, teaching material

Abstract

Objective: We developed the health class' teaching material for the interactive learning of sexuality in high school.

The purpose of this study was to evaluate the material and the health class with it.

Methods: We had lessons using the developed teaching material for interactive learning of sexuality. The participants were 187 second-year high school students from two schools. The data were collected in July, 2017.

Results: We developed “CROSS OPINION,” which is a card-type teaching material.

- 1) Students learned collaboration through various opinions.
- 2) The class' objective was accomplished.
- 3) Although some students felt it hard to talk, most of them seemed interested to try it again because it was enjoyable for them.
- 4) According to the students' feedback sheets, they seemed afraid that they might face sexual problems in the future. So, this lesson helped them to take it seriously.
- 5) We found that this teaching method had a good influence on talking activity. Also, it gave students an incentive for self-determination and for empathy with someone.

Conclusions: The results showed that “CROSS OPINION” is effective for interactive learning of sexuality in high school health class.

[JJSHE, 2020; 5(1):2-14]

1) *Takasaki Municipal High School of Takasaki City University of Economics*, 2) *Gunma University*,

3) *Niigata University*, 4) *Mejiro University College*